

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）  
分担研究報告書

がん告知後の心的外傷対処プロセスの解明に基づいた介入法の開発

研究分担者 清水 研 国立がん研究センター中央病院  
精神腫瘍科 科長

研究要旨 危機的な状況に暴露されることによる精神心理面における正の側面として「外傷後成長（Post Traumatic Growth, PTG）」が存在することが指摘されている。昨年度までの知見から、日本人のがん患者における PTG は、他のストレスや文化圏におけるものとは異なる可能性が示唆された。そこで今回我々は日本人のがん患者における PTG を明らかにするための質的研究を開始し、目標 20 症例のうち 19 例の集積を終了した。

A. 研究目的

がん罹患はすなわち生命の危機を意味するため、破滅的な恐怖体験をもたらし、その結果として多くの患者がうつ病、適応障害などの精神疾患に罹患することが示され、がん罹患の精神心理面における負の側面が明らかにされてきた。一方で、危機的な状況に暴露されることによる精神心理面における正の側面として「危機的な出来事や困難な経験との精神的なもがき・闘いの結果生ずるポジティブな心理的変容の体験」と定義される、「外傷後成長（Post Traumatic Growth, PTG）」が存在することが指摘されている。我々は PTG を媒介した日本人のがん患者に対する心理的介入法を確立し、心理的苦痛の軽減を最終的な目標としているが、がん体験を他のトラウマと同一視することが可能なのか、また、日本人における PTG は欧米人におけるそれとの異動はないのかという疑問が生じる。そこで我々は、既存の PTG と、日本人のがん患者における PTG に異動が存在するか否かを予備的に検討することを目的に、既存の研究のレビューを行ったところ、その内容が異なることが示唆されたため、実際に日本人のがん患者を対象とした質的研究を実施することとした。

B. 研究方法

がん患者 20 名を対象に、質的研究を行う。具体的には、「がんに罹患したことはあなたの人生観を揺るがすような体験でしたか？」という質問を用いて、がん体験が患者にとって人生観をゆるがすようなトラウマ体験であったかを確認した後、「がんに罹患して良かった

と思えたり、成長できたと思えたり、良い変化が起きたと感ずることがありましたか？」という質問を用いて、外傷後成長の抽出を行った。さらに、「成長したと思えるきっかけとなる出来事がありましたか？」、「成長の助けになったことがあれば教えてください」という質問を用いて、外傷後成長の促進要因を抽出する。インタビュー結果は内容分析を行う。

（倫理面への配慮）

本研究は国立がん研究センター倫理審査委員会の承認をもとに開始された。対象者には書面での説明と同意を行った。

C. 研究結果

平成 25 年 1 月 31 日現在、目標 20 例中 19 例の集積を終了した。

D. 考察

がんという疾病の性質や、日本人の文化的背景から、日本人のがん患者における PTG は、先行研究における知見と異なる結果が得られることが期待される。

E. 結論

日本人のがん患者における PTG を明らかにするために、質的研究を開始し、症例集積が進捗している。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表
1. Shimizu K, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y, et al: Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis. *Annals of Oncology* . 21(5),2012
2. Ogawa A, Shimizu K, Uchitomi Y. et al: Availability of psychiatric consultation-liaison services as an integral component of palliative care. *Jpn J Clin Oncol*. 42(1), 42-52,2012
3. 清水 研: QOLを低下させる心の病。早期治療で改善を。がんサポート, 112, 50-53, 2012
4. 清水 研: 緩和ケアにおいて心身医学はどのような貢献ができるか? 心身医学, 52, 617-622, 2012

2. 学会発表

1. Shimizu K: Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. EAPON 3rd, 2012.9.7, Beijing
2. Shimizu K: Clinical bio-psycho-social risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. IPOS14th, 2012.11, Brisbane
3. 清水 研: 腫瘍内科医、看護師との協働によるストレス早期発見・対応プログラム。第10回日本臨床腫瘍学会 2012.7, 大阪
4. 清水 研: 早期からの緩和ケアを実現するために。第25回日本総合病院精神医学会 2012.11, 東京

H.知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
特記すべきことなし。